

地域を楽しむ滞在型の旅行商品

じねたび (NPOオンパク他県内各地事業者連携)

オンパクを通じてプログラムの開発と人材育成

NPOオンパクでは、03年春のオンパクから継続的にエコツアーを開催。別府近郊をはじめ大分県内各地の事業者らと連携して、エコツアー商品の開発を実施。同時にエコツアーガイド人材の育成を図ってきた。既に40を超えるエコツアープログラムを商品化、5名のガイドも育成できた。

06年に始まった「大人の長旅・九州」プログラムに参加して、長期滞在型の顧客の受入れに関するノウハウも蓄積してきた。3年目に入り、対象となる顧客層、求められるサービスフォーマットの検証が終了。

旅館LLCで事業化

平成20年度中に旅館数軒の出資によるLLCが設立され、地域を楽しむ滞在型旅行に特化したサービスを開始する予定。
5年後に、延べ滞在日数3万泊の取扱を目指す。
じねたび事業で得た「地域型エージェント」のノウハウおよび運営基盤ITシステムは、全国に展開しているオンパク事業者にも提供していく予定。



写真：じねたびプログラム

- 右上 棚田ウオークと農家のお昼ごはん
- 左上 夜の路地裏散歩
- 左中 地獄蒸し体験ランチ
- 左下 蒲江の海の幸を楽しむ



大人の長旅・九州
国土交通省・ニューツーリズム創出・流通促進事業の一環として「大人の長旅九州コンソーシアム」が実施。

別府の温泉資源を活用して、女性の美をとことん追及

林 昌治さん (エッチ美容室・ファンゴティカ)

オンパクを通じてサービスの開発と告知を実現

オンパクには2001年から参加、年に2回あるオンパクを自身の開発した新しいエステサービスの告知およびテストマーケティングの場として活用してきた。

イタリアに渡って習得したファンゴ(温泉泥)エステのノウハウを活用して、別府の温泉泥を行ったエステプログラム(ファンゴティカ)を確立する。オンパクへの参加を通して、サービスフォーマットを確立すると共に、ファンゴティカを知ったお客さまが来店するようになる。県外から、有名人も来店するほどに成長する。



別府温泉水を使った化粧水を商品化

別府温泉が100%入った「べっぴん泉」を開発。別府の新しいお土産として販売拡大中。完全無添加の質にこだわった商品として徐々に売れ行きが伸びている。



林 昌治さん
 エッチ美容室経営
 CIDESCO国際エステティシャン
 まちづくりの事例を視察する為、イタリアへ研修に行った際に、ファンゴエステと出会い、別府で取り入れるために研究を始める。



写真：
 右上 お店にて
 右中 七色の温泉泥
 右下 ファンゴティカ
 左下 べっぴん泉

地獄釜を活用し、観光資源として再利用。客層に大きな変化を与える。

安波 秀男さん (大黒屋・地獄蒸し屋台)

地獄釜は観光客にとっては珍しいものであるという発見

地獄蒸しは、日常生活で使われていたもので住民にとっては珍しいものではなかった。オンパクから地獄蒸し屋台風にして提供しないかという提案を受け、地元情報誌の編集長からアイディアを得てオンパクにて提供する。想像以上に評判が良かった。回を重ねるごとに発展していき、現在は屋台も増設され、野菜十数種・肉10種類・魚15種類が美味しく楽しめるものにオンパクを通して進化した。

口コミで広がったお客さんとの出会い。客層の変化

オンパクで成長した地獄蒸しは、オンパク参加者の口コミによって広がる。大黒屋の客層は大部分が年齢の高い常連客で占めていた。しかし、地獄蒸しが有名になる事によって、20代~30代のお客さんが増える。客層が逆転する。お客さんの中には、大黒屋を気に入り結婚報告をしてくれる人も登場するようになる。



安波 秀男さん
湯治の宿 大黒屋
名物地獄蒸しを鉄輪にて提供している。
地獄蒸しは自分で蒸す事が出来るため、観光客から大変評判が良い。



写真：
右上 屋台にて食事
右中 出来上がった美味しいもの
左下 作業の姿

オンパクでの講座をきっかけに、女将と豚まん屋の二束の草鞋

後藤 美鈴さん (入舟荘・鉄輪豚まん本舗)

クラフト作家に対して発表の場を提供

オンパクへは当初、鉄輪女将の会が主催していた工芸展をプログラムの一つに組み込むところから始まる。オンパクの中で、工芸作品は見るだけでなく、実際に体験することが大切として進化させ提供するようになる。次第に、オンパクの知名度も高くなるにつれて講師が自然と集まるようになる。美鈴さん自身も、鉄輪の名物女将講師として活躍するようになる。

普段の客層とは異なるオンパク参加者の声が、開業のきっかけ

手作り豚まん教室をオンパクにて開催した際に、「美味しい」という多くの反応と、これ歩きながら食べたいと思う等の声が美鈴さんの耳に届く。店舗を構えてみるべきではと判断し、女将業の傍らで豚まん屋を開業する。二束の草鞋となる事を承知の上で、精力的に現在も活躍中。

後藤 美鈴さん
 旅館入舟荘 女将
 現在は、一遍上人と鉄輪というテーマで「まちづくり」を展開しようと活躍中。鉄輪の元気なお母さんとして、多くの観光客に愛されている。



写真：
 右上 女将の姿
 右中 講師として活躍
 右下 豚まん

木造アーケードの保存の為に、地産地消型弁当ビジネスを開始

水口 民子さん (カフェ タケヤ)

コミュニティビジネス支援制度を活用

竹瓦温泉前のカフェタケヤの名物ママは、思い出の沢山詰まった木造アーケードの保存をしたいと思っていた。単純な保存再生運動ではつまらない・大分県のコミュニティビジネス創出支援事業を活かし、「弁当はメディアだ!」「弁当はトラスト活動だ!」という事で、別府周辺の素材を使った完全手作りの弁当「別府湾弁当 民子の夢」を開発した。ネーミング・商品開発・告知にオンパクが協力した。

限定30食の弁当が九州の駅弁ランキング6位に!

オンパクの紹介でJR九州の「駅弁コンテスト」にいきなりエントリー・ネットや新聞で話題になり、九州の駅弁コンテストに6位入賞。駅で売られていない希少な駅弁である。そのあと、北九州のデパートで60食・5分で完売の伝説を作り快調にビジネスは拡大。

木造アーケードの募金も集まりやすくなり、看板が完成!



写真：
 右上 弁当
 右中 看板お披露目

オンパクが人生の転機、外側の癒しではなく内側の癒しの大切さ広げる

藤咲 里花さん (株式会社KARON)

オンパクを通じて株式会社を開業

2005年10月のオンパクに参加し、自身も飛び入り参加でメンタルセラピーに関するセミナーを2005年12月にパートナーとして提供する。
家運せり具は大分では認知されていなかったが、参加者の反応が良くセミナーへの可能性を感じる。藤咲さんの勉強会にオンパク参加者が参加するようになる。オンパクに参加者の間で口コミで広がり、反響の大きさと活動拠点が必要と感じ2006年1月開業する。
オンパクでは成功も失敗も次のステップへと繋ぐフィードバックを行い、現在の成功がある。

活躍の場を別府から海外へ

オンパク参加者に対し、別府から世界へ活動の場を広げるといった想いを伝え続けていた。海外へ羽ばたく前に、全国でのセミナー巡業を達成する。NPO法人国際カウンセリング協会の理事に就任し、ついに上海での活動が決定する。



藤咲 里花さん
株式会社KARON 代表取締役
メンタル総合コンサルタント
米国NLP協会公認NLPマスタープラクティショナー
国際カウンセリング協会 理事
オンパクを通じて、活躍の場を世界へと広げ活動する。

時代を読み新しい効果的なスポーツマッサージをオンパクで実践

能住 幸次さん (ウェルネスBEPPU)

実験的にオンパクで新しいスポーツマッサージを提供

当初は温泉と運動のサービスを提案するところから出発した。より効果的なマッサージをオンパクで発信するようになる。そして、バランスボールを利用したエクササイズを別府でいち早く取り入れ、アロマフットマッサージを提供した。このアロマフットマッサージには、プロの人間も参加して実際にオンパクの講座に参加し得た内容で、自分の仕事にした人まで登場。実験的にオンパクで発表し、実際にプログラムの一つとして加え、事業拡大につなげている。

オンパクとの連携で生まれた有能な人材

ウェルネスコーディネーター育成事業として、オンパクと連携する事により2005年に4名のコーディネーターを輩出した。現在、コーディネーターが別府市内にある温泉施設テルマスにて活躍している。今後も、コーディネーター育成を継続的に行なっていきたいという考えを持っている。

能住 幸次さん
有限会社ウェルビー 代表取締役
ウェルネスBEPPU 代表
ウェルビートレーナーズスクール 代表
(財)日本体育協会公認スポーツプログラマー
地域社会に運動(エクササイズ)を浸透させる事を目標
にオンパクを活用している。



写真：
右上 談笑中の能住さん
右中 プログラムの最中

別府にクリニックの宣伝を行なうために、オンパクを活用

平川 真帆さん (別府駅前クリニック)

オンパクって何? という状態からの参加

何を行なっている団体か分からないまま、別府駅前クリニックを宣伝する方法の一つとして友人の紹介でオンパクに参加する。

2007年5月に行なったオンパクで、普段の金額より安く皮膚の若返りプランを提供する。予約開始と共に直に定員オーバーになってしまう。オンパク終了後、三ヵ月後の8月にオンパク参加者がリピーターとしてクリニックに通うようになる。



クリニック内でのアイデアを具現化する場としてオンパクを活用

スタッフが考え平川先生自身も考え出したアイデアを、実験的に発表する場として今後活用していく。

一度目のオンパクでリピーターが生まれた事から、効果的な広報であると考え今後も継続的に参加していくという意思をもっている。

平川 真帆さん
別府駅前クリニック 院長
からだの内から外からキレイにする事を広める為、オンパクに参加する。
2007年5月のオンパクにて短期間でリピーターを獲得する。



写真：
右上 参加者若返り中
右中 治療前の説明会

フラメンコを広める為にオンパクに参加、1回のオンパクで1クラスが誕生する

松尾 美香さん (フラメンコ教室主宰)

フラメンコ教室生徒からの紹介でオンパクに参加

フラメンコ教室に関する広報を別府で行っていなかった。そこで、生徒からオンパクの存在を聞く。この生徒は、オンパクファンクラブ会員であった。まず、フラメンコ教室の存在を広めるという意図で参加する。

一回のオンパクで1クラス増える

オンパクプログラムの参加者に変化がおきる。実際にフラメンコを踊って、日常的にフラメンコを踊りたいと教室に入会する人が増加した。結果的に、一度に6~8人くらいの入会するという状況となる。6~8人の増加はクラス増設につながり、現在もオンパクを行なう度に松尾先生に惚れて入会を希望するオンパク参加者は増えている。



松尾 美香さん
 東京・福岡・大分でフラメンコ教室主宰
 北九州朝日カルチャー講師
 小松原庸子スペイン舞踊団員として国内・海外に
 おいて数多く公演に出演

写真：
 右上 指導する姿
 右中 舞う松尾先生
 左下 華やか舞台

オンパク協賛店として参加後、本業に専念する為にオンパク卒業

大杉 陶子さん (陶子堂マッサージ)

オンパクを通して顧客を獲得

2002年からオンパクに参加する。温泉とマッサージをテーマに、デイスパというコースが誕生する。ここに陶子さんも協力。デイスパが、日常化という形でオンパク期間に関係なく提供する形が生まれる。オンパクに名前を掲載している事で、広告となり本業の治療室へ予約を取ってくる人が増える。徐々にオンパク期間中も本業が、忙しくなりオンパク卒業。

今後の展開

オンパクを離れても、治療室を継続していく事で別府の為に地元のために役に立てるのではないかと陶子さんは考えている。

大杉 陶子さん
 陶子堂 経営者
 御灸師・あんまマッサージ指圧師
 オンパクへの参加で、顧客を獲得し現在は竹瓦温泉の近くに治療室を構えて多くの人々の疲れを癒し続けている。



写真：
 右上 治療中
 右中 お店の雰囲気

歴史的価値のある夢の空間を開放し、楽しみを生かす活動の場へ

高橋 鳩子さん (聴潮閣高橋記念館)

オンパク人気プログラムが生んだ、オンパクを通じた新しいつながり

オンパクプログラムで企画した、「芸者あそびのすすめ」は超人気講座となる。このプログラム参加者が、ぜひ自分の娘の結婚式に聴潮閣にて、「芸者あそび」体験させたいという要望によって結婚式が行なわれました。同じオンパクパートナーである菓創研にウエディングケーキを発注するというコラボレーションを実現し、結婚式を盛り上げた。オンパクが生んだ、新しいつながりの形となる。

遊び心あふれる夢の空間をオンパクから提供しつづける

オンパクには2001年から参加、当初は主に場所を提供するという形で参加していた。一回のオンパクで10のプログラムが展開されるオンパクの要といえる場所であった。聴潮閣の活用の幅は増え、庭園を活用したコンサートの開催。オンパクを別府という枠に留めず、由布院でもコンサートを開催。現在は、聴潮閣を貸し会場として古き良き時代の香りのする空間を趣味を広げる講座の会場として提供している。



高橋 鳩子さん
 聴潮閣 館長
 由布院美術館 館長
 聴潮閣を保存するだけでなく活用するために、オンパクにて楽しさを生かす場を提供する仕掛け人として初回から参加している。



写真：
 右上 芸者あそび風景
 右中 コンサート
 右下 大盛り上がり
 左下 鳩子さん

別府温泉観光名所鉄輪の散策名物ガイドとして活躍、現在も鉄輪の資源を発掘中

河野 健司さん (ひょうたん温泉)

まちあるきの日常化が生んだ年間通して参加者3000人

鉄輪の歴史や風景を美味しいものと一緒に「まちあるき」という形で、河野さんは毎月第3日曜日に提供していた。オンパクは「まちあるき」の日常化を提案し、柔軟に受け入れる。「鉄輪ゆうぐれ散歩」として毎週土曜日曜に行なっている。

2005年度の集計によって、参加者総数が3000人になる。オンパクのプログラムとして組み込まれる事によって、観光客は一つの商品価値のものさしとなっている。今後は、テーマ性のあるコースを作る事を目標としている。

オンパクが一つにまとまる手段。オンパクを知らない人との溝

鉄輪地域で、オンパクに参加する人が増加している。日頃は、個々で仕事を持っている為なかなか交流をする事ができないが、オンパクというツールを使って地域を元気にさせようとしている。しかし、昔から鉄輪に住んでいる人々は未だにオンパクを知らないという現状にある。河野さんは、オンパクが更に浸透をすることを望んでいる。



河野 健司さん
株式会社コーネット 専務取締役
ひょうたん温泉
鉄輪名物ガイドとして、まちあるきを盛り上げる。
軽快な話は観光客を楽しませている。

別府の隠れた美しい山中の景色と取れたての野菜を茶屋で提供し続ける。

永井 實千代 (やなぎ茶屋来楽良)

まずは知名度を上げるところから始まった。

2003年10月にオンパクに参加する。柳地区の存在を別府に広める事が当初の目的であった。オンパクのプログラムとして参加することによって、柳地区は知られるようになる。中心街でのイベントにも柳の野菜が注目されるようになる。大学生が授業の一環で調査に入り、若い人々にも認知される。

突然現れた大きな壁

オンパクによって柳地区の知名度が上がっていく事は良いことだけを呼び込んだだけではなく、今まで関係の薄かった人々がNPO法人として柳地区に入り込む。そこで、地元住民には知らされことなく開発の案が決定され、いつか着工される状況にある。オンパクで得た知名度を利用される事態が発生する。今後は、ヒューマンネットワークを充実させる事を最優先に行なう。一気に有名になった柳地区は現在、暗いトンネルの中に入ってしまったような状態である。これを、永井さんはなんとかしようとして日々活動している。

永井 實千代さん
 やなぎ茶屋来楽良(きらら) 店主
 柳地区の野菜に注目して、美味しさを茶屋という場を利用して来訪者へ振舞う。柳地区が元気になる方法を、日々熟慮し活動中。



写真：
 右上 柳の玄関
 右中 参加者の食事風景

農業地帯を一つの魅力ある観光資源へ変化させ、まちとの関わりを研究

後藤 幸彦さん (棚田里山景観研究所)

棚田の知名度を上げた仕掛け人

内成の棚田は日本の棚田100に選ばれる程の素晴らしいものだった。しかし、別府に住む人々は内成の棚田について何も知らない状況であった。元々「まちあるき」のガイドをしていた後藤さんは、2003年のオンパクで棚田ツアーを実施した。当初は観光資源となるか不安を抱いていた。結果的にオンパクによって内成が目立つようになる。オンパクのウォーキングプログラムには欠かす事ができないものになる。特に、「田植え」体験は都会に住む人々から反響がよく成功を納めている。最近では、大学生が棚田の田植えに興味を持ち、実際に田んぼの手入れを行なっている。オンパクを通じて内成地域の中でも変化がおきている。



地元住民との連携が今後の課題

オンパクへの参加は後藤さんが声をかけ実施してきている。しかし、地元住民がオンパクに頼りすぎていて、地元が考えて動くという状態にならずにいる。後藤さん一人では展開できない事もありオンパクでのプログラムが成長して上で、地域での人脈作りが必要になってくる。地域の間人との濃密な関係を築き、オンパクを活用していく事が今後行なわなければならない事だといえる。



後藤 幸彦さん
 棚田里山景観研究所 所長
 棚田のあぜ道が通学路という幼少時代を過ごす。
 今は棚田の景観保全をライフワークとしていて。今後は、内成という農村地域と都市との交流を積極的に行なっていく。



写真：
 右上 後藤さん
 右中 大パノラマ棚田
 左下 田植えの苗

別府を盛り上げる祭りとしてオンパクを受け入れ、食の大切さを伝える

石川 美巴子さん (茶房信濃屋)

別府の人間として何か行動起こしたいという熱い思いが原動力

2001年から6年間継続的に参加している。

良いものを提供したいという想いから、スローフードに目を向けて

季節に合った食材を食べる機会をオンパクを通じて与えたいと考える。

利益を度外視して、オンパクでは参加者を楽しませる事に全精力を注ぎ込んでいる。

オンパクは刺激的な場所であり、様々なタイプの人とコミュニケーションが出来る

日頃お客さんとして関わりがなかった女性の方が、プログラムに参加してくる。

提供する料理を教えて欲しいという人が若い人で増えてきている。こういった若者が信濃屋の顧客となり、リピーターとしてお店に顔をみせるようになっていく。

新しい出会いによって、オンパク中は刺激的な時間を過ごせている事が石川さんの楽しみになっている。

いつお店をやめるかわからないが、体の調子が良い間はオンパクを通じて別府を盛り上げる一翼として活躍する考えでいる。

石川 美巴子さん
 茶房信濃屋 代表
 オンパクは祭りだから盛り上がりがないといけないという
 合言葉を胸にオンパクで活躍し続ける別府のママ。
 スローフードをテーマにオンパクで講座を6年間持ち続け
 ている。毎回人気の講座を提供。



写真：
 右上 お店にて
 右中 お茶を楽しむ姿

裏芸大会で発掘！ 忘れられた存在から湯の街のアイドルへ...

流しのはっちゃん・ぶんちゃん

路地裏文化祭の裏芸大会に登場

オンパクの始まる1年前に別府で行われた「路地裏文化祭」、裏が表の10日間をキャッチコピーに行われた、「裏芸大会」で不思議な二人組を発見！カラオケの隆盛に仕事を奪われていた、流しのコンビ「はっちゃん・ぶんちゃん」であった。

夜の路地裏から、新橋演舞場の花道へ！

あまりイメージの良くなかった別府の夜の街を変えるために企画された「夜の路地裏散歩」...はっちゃん・ぶんちゃんは、そのメインガイドに抜擢されるのであった。オンパクの都度、大人気のプログラムとなった「夜の路地裏散歩」で知名度が向上。「はっちゃん・ぶんちゃん」の特異なキャラは、中村勘三郎の目に止まり、別府を題材にした「喜劇・地獄めぐり」の初日・新橋演舞場の花道を飾ったのだった。テレビでも有名になった流しの二人は今や別府の夜の町のアイドルになったのである。



写真：
 右上 路地裏を案内
 右中 アド街で6番目

オンパクを通して別府のA級とB級を案内する案内人として活躍し、本業と結びつく

吉永 秀生さん (吉永カメラ・やよい商店街)

観光地別府に必要な夜の案内人

参加者という形で参加するが、A級劇場(ストリップ劇場)が営業再開すると共に2001年12月の忘年会シーズンの会社員を対象に案内人として活躍。

オンパクに「お色気A級散歩」と銘打って参加。初回から、反響が良く定員がすぐ満員になるプログラムになった。
当初、オンパクに適合するののかという不安があった。オンパクのプログラムとして、A級劇場に参加する事により多くの人々が一つのエンターテイメントとして受け取り、裏のイメージが払拭されていくという変化をもたらした。

オンパクがきっかけで本業が活かされる

オンパクにて、B級グルメやお色気A級散歩のガイドを行なっていく中で、吉永さんがメディアに取り上げられた。
地元の新聞社が、8mmフィルムをDVDにするという技術を持つ本業に興味を持ち、取材を受け記事が掲載される。反響があり、全国の鉄道ファンからぜひ懐かしの映像を欲しいという声がかかるようになる。

吉永 秀生さん
吉永カメラ 店主
裏のイメージを持たれやすいストリップを、
楽しむ場として提案し続ける伝道者。
更に、別府のお色気歴史を散歩の中で紹介している。



写真：
右上 掲載された写真
右中 ガイド中